

新着図書からおすすめの5冊



毎週火曜日は、新着図書の配架日です。本日10月25日（火曜日）の新着図書の中からおすすめの本を紹介します。インターネット予約・貸出は、11月1日（火曜日）からです。

『仕掛学』

松村 真宏／著、東洋経済新報社／刊、請求記号：141.7/ Ma,82

内容：小さな鳥居を設置すると、ポイ捨てしづらくなる-。仕掛けは行動の選択肢を増やすもの。仕掛けの仕組み、発想法など、著者がこれまで取り組んできた、行動を変化させる「仕掛け」についての研究を平易にまとめる。

著者紹介：1975年大阪生まれ。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。大阪大学大学院経済学研究科准教授。博士(工学)。

『ニッポン島遺産』

斎藤 潤／著、実業之日本社／刊、請求記号：291.09 /Sa,25

内容：日本の島々に残る古からの遺産を訪ね歩けば、改めて日本の豊かさ、面白さを発見できる-。悪石島のボゼ、硫黄島に刻まれた記憶、軍艦島の廃墟群、八ミヤ島の大砂丘…。後世に残したい自然・文化を抱く珠玉の40島を紹介。

著者紹介：1954年岩手県生まれ。東京大学文学部露文科卒業。月刊誌『旅』などの編集に携わった後、フリーランスライターに。旅、島、食、自然、農林水産業などをテーマに全国を巡り執筆活動を行う。

『虫の目になってみた』

海野 和男／著、河出書房新社／刊、請求記号：486/ U,76

内容：昆虫は世界をどんなふう認知しているのか。アブラムシを食べるテントウムシ、シジミチョウの幼虫とアリの蜜月、臭いでSOSを送るカメムシなど、小さな脳しか持たない彼らの合理的な生き様を、昆虫目線で追いかける。

著者紹介：1947年東京生まれ。東京農工大学の日高敏隆研究室で昆虫行動学を学ぶ。アジアやアメリカの熱帯雨林で昆虫の擬態を撮影。日本自然科学写真協会会長。著書に「大昆虫記」など。

『町の未来をこの手でつくる』

猪谷 千香／著、幻冬舎／刊、請求記号：518.8/ I,23

内容：高齢化・過疎化・財政難に直面する岩手県紫波町は、今や県内第2位の地価上昇率を記

録し、駅前エリアには年間90万人以上が訪れる。補助金や大手企業に頼らない、公民連携によるまちづくりの全貌を明らかにする。

著者紹介：1971年東京生まれ。明治大学大学院博士前期課程考古学専修修了。産経新聞記者等を経て、ハフィントンポスト日本版記者。著書に「日々、きものに割烹着」など。

『ガーデニングとイギリス人』

飯田 操／著、大修館書店／刊、請求記号：629.2/I,26

内容：修道院の思索の庭、権勢誇示のための贅を尽くした整形庭園、コテージ・ガーデン…。何世紀もかけて、岩だらけの島を花一杯のエデンの園に変えてきたイギリスのガーデナー。そのガーデニング文化を俯瞰する。

著者紹介：1946年兵庫県生まれ。広島大学名誉教授。博士(学術)。著書に「忠犬はいかに生まれるか」「それでもイギリス人は犬が好き」など。

佐賀県立図書館 〒840-0041 佐賀県佐賀市城内二丁目1-41

Tel 0952-24-2900 Fax 0952-25-7049 E-mail saga-kentosyo@pref.saga.lg.jp